



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

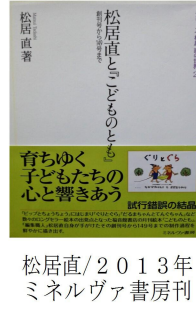


【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

★「松居直と『こどものとも』」(ミネルヴァ書房刊)の序章の最後には、「満を持して二万部を用意した創刊号は、部数調整がついたのは第二号からです。」

★「毎月、少しずつ注文が増えていきました。それが、それでも到底採算が取れる状態ではなく、一九五七(昭和三十一年)の年が明けた頃には、休刊の空気が社内には漂い始めました。」

★「そんな時、第四回の産経児童出版文化賞を『こどものとも』創刊号から第十一号までが受賞するという連絡が入りました。この受賞で、休刊寸前までいっ



産経児童出版文化賞が起点に

「こどものとも」を彩る作家と画家たち ⑭
休刊寸前からの起死回生劇

ていた社内空気がガラッと変わったのです。」と語られています★今回の「第2回絵本講座」でも、そのことに関連する話題に触れながら講演を結ばれています。

「こどものとも」を

◆「こどものとも」をなぜ横長にするのか、なぜページ数を増やすのかという、非常に重要な問題が残っていました。「こどものとも」を横長にして、ページ数を増やして、そして50円のを100円にしたら、「こどものとも」が急に売れるようになったんです。それで、ようやく黒字になったんです



年目ぐらいで産経児童出版賞特別賞(第7回)というのをいただいて、そして、この横長になった時に産経児童出版文化賞大賞(第10回・一九六三年)というのをいただいて、まさに「三冠王」になったんです。(おわり)

初めて出た本の裏側を見た「30円」て書いてあったんです。値段の設定に当たって、最初はどんな御苦労があったのでしょうか？



◆最初の値段はそれです。あれはね、「母の友」が20円だったんです。それで「母の友」を真似して、他の大きな出版社の方が「母の国」とか「おおかあさん」とかを作ったんです◆それで、半分は冗談に言ったんですけど、

★「産経児童出版文化賞」って？
学校図書法の施行に合わせて、1954(昭和29)年に産業経済新聞社が創設した賞で、児童文学の賞の一つ。同社主催のもので、次世代を担う子どもたちに優れた本を与える目的で制定された。現在の後援は、フジテレビジョンとニッポン放送で、JRグループが協賛。協力は、東京都飯田橋にあるホテルメトロポリタンエンドモンド。

★「こどものとも」シリーズのあゆみ★

◇1956年4月	月刊絵本「こどものとも」創刊	
◇1968年4月	月刊絵本「普及版こどものとも」	刊行開始
◇1977年4月	月刊絵本「年少版こどものとも」	創刊
◇1986年4月	月刊絵本「普及版こどものとも」	を「こどものとも年中向き」と改名
◇1994年4月	月刊絵本「年少版こどものとも」	を「こどものとも年少版」と改名
◇1995年4月	月刊絵本「こどものとも0.1.2」	創刊
◇1997年11月	月刊絵本「こどものとも」	500号となる
◇2006年4月	月刊絵本「こどものとも」	創刊50周年

「『母の友』の付録に絵本を付けよう」として私が言い出したんです。「他の出版社が付録を付けるんだから、『母の友』の付録に絵本を付けて両方で50円で発行しよう」と◆初めは冗談だったんだけど、とうとう最後で本気になっちゃって、それで「こどものとも」は30円を出したんです。「両方で50円。これなら買えるだろう」と。

☆次号より「第3回絵本講座」での講演から抜粋してお届けします。お楽しみに。



福音館書店刊

